

厚生労働省子ども家庭局

第 4 回子どもの権利擁護に関するワーキングチームヒアリング

すべての子どもの権利を守ること

社会福祉法人麦の子会
総合施設長 北川聡子

ユニセフのホームページより

「子どもの権利条約」子どもの権利は大きく分けて4つ



生きる権利

すべての子どもの命が守られること



育つ権利

もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療や教育、生活への支援を受け、友達と遊んだりすること



守られる権利

暴力や搾取、有害な労働などから守られること



参加する権利

自由に意見を表したり、団体を作ったりできること

ユニセフのホームページより

「子どもの権利条約」 一般原則

- ・ **生命、生存及び発達に対する権利（命を守られ成長できること）**

すべての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されます。

- ・ **子どもの最善の利益（子どもにとって最もよいこと）**

子どもに関することが行われる時は、「その子どもにとって最もよいこと」を第一に考えます。

- ・ **子どもの意見の尊重（意見を表明し参加できること）**

子どもは自分に関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、おとなはその意見を子どもの発達に応じて十分に考慮します。

- ・ **差別の禁止（差別のないこと）**

すべての子どもは、子ども自身や親の人種、性別、意見、障がい、経済状況などどんな理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障されます。

障害のある子どもの生きる権利

- 心理支援・情報提供など支援体制が整っていない中で、
出生前診断後の陽性の場合約90%以上が中絶せざるをえない状況での選択。
- 障害のある子どもが生きるための体制が十分に整っているのだろうか。
- 一方で、障害や疾病がある子どもを排除することは、
より良い社会を形成するのだろうか。
小さきもの弱きものを大切にする日本になっているのか。

育つ権利

もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、
医療や教育、生活への支援を受け、友達と遊んだりすること

子どもの力にあわせた特別支援教育はあるが、障害のある子どもは、
特別支援教育を受けるべきという考えが強く、
地域の学校に通学したいという選択をする場合大きな壁がある。

卒園児の声

「特別支援学級に行ったが、障害のある子どもも、ない子どもも、
学校の大切な子どもだと校長先生の言葉が欲しかった」

「普通学級の子どもと同じクラスで活動したかった」

「もっと勉強したかった」

育つ権利ー支援は何のためにー

ベスさんに教えてもらったこと (バークレーの自立生活センター・TLG)



「療育が私の人生ダメにした！」

「エッ!!」

「子どもの障害を改善するために療育はあった」

「自己肯定感が下がる支援」

ベスさん、ありがとう。

この言葉で療育が目指す姿に気づかされた！

障害児の虐待

(JASPCAN 障害児虐待予防ワーキングチーム)

- 児童相談所における障害児虐待の件数は、把握されていない。
- 児童相談所において一時保護の個々の事例を分析をおこなった。
- 三か所の児童相談所において平成 30 年 9 月 1 日～ 10 月 31 日までの二か月間の一時保護された全事例を対象
- 三つの児童相談所に一時保護された 120 名の内 33 名 (27.5%) に「障害」が認められた。
- 障害がある子どもの虐待のリスクは高い (障害の受容・子育ての大変さ)
- 障害のある子どもを殺害した事件
「減刑嘆願」「母よ殺すなかれ」
(障害に関わらず同年齢の市民と同等の基本的権利を有する、1975)

施設中心の福祉

過去 — 施設中心の福祉

1. 社会から疎外されていた障害児を入所させ、生活支援、学習支援、職業

2. 入所施設をつくり生活支援から日中活動支援を一体的に行う



安心して生活できるために障害児・障害者だけのユートピア（コロニー）の建設



社会から隔離する結果に

子どもの意見の尊重

- 日本では充分に守られていない子どもの権利ですが、
障害のある子どもの権利はより守られていないのではないかな。
- 小さなころから障害の訓練のために、何カ所もいろいろな機関に連れていかれる。
障害のない子は、幼稚園・保育園だけが大多数。
- 障害のある子どもは一人の子どもです。
でも子どもの問題行動が障害のせいにされる＝障害が悪い＝支援の内容はどうだったのか

「いちばん嫌なのが、わからないからといって、
見た目の行動だけで気持ちまで決めつけられることです。」

「僕について話しているのにもかかわらず、
まるでそこに僕がいないかのような態度をされると傷つきます。
自分は、その辺の石ころみたいな存在なのだろうか。」 自閉症の僕が飛び跳ねる理由 / 東田直樹

Nothing about us without us

(私たちのことを、私たち抜きに決めないで)

障害があると「自分で物事を決められない」ということで、「子ども・本人のため」ということで、親や支援者が彼らに関わる物事を決めてしまい、「自分のことは自分で決める」という権利を奪われる育ちだったのではないか。

障害者の権利に関する条約で制定に関わった障害のある人たちのスローガン「Nothing About Us Without Us」というこの言葉こそ障害のある方の権利の主張でした。

障害のある子どもの権利を守る支援

1. 子どもとしての育ちを支える支援

愛着関係の形成・安心、安全を土台とした人を信頼できるような支援、
発達に合わせた適切な期待値への取り組み、成功体験と自己肯定感につながる、
二次障害につながらないような肯定的な関わりと環境、
見通しに支えられた自発性と自律

表現する自信、自己主張

甘えたい時は甘えたらいい、イヤな時はイヤと言っていい、
怒りたかったら怒っていい、幼児なんだから

安心できる環境のなかで障害のある子ども達が自分に
自信をもって意見を表明し、前向きに人生を切り開いていける支援

障害のある子どもの権利を守る支援

2. 社会モデルとしての家族支援

子どもを救うには家族が救われなければならない（ネウボラ保健師）

障害のある子どもの子育ては、障害の受容、子育ての大変さなど様々な支援が必要です。子育てをお母さんだけのせいにせず、社会的にしっかりと関わっていくことが必要です。子どもの権利を守るための家族支援。

スウェーデンの保育園で



先生「今日はパンケーキづくりと裏山への散歩です。」
「どっちがいいですか。」

子ども達は自由に考えてやりたいことを選ぶ。
散歩を選択した子ども達は、
パンケーキを食べることはできない。



食べたいと思ったら、パンケーキを作ったグループの
子ども達にお願いして、了承を得てから。

●自己決定・選択と自己責任の積みかさねの保育

親子グループー大人は聞くだけ



勝手に離婚して嫌だった。離婚してほしくなかった。

服を買うのは苦手だけど、自分で選ばせてほしかった。
「〇〇は、これが好きなんだよね」と決めつけて、
なんでも親が決めるのはやめてほしい。

どこかでできない子どもだと思っている。
自分をもっと信じて欲しい。

お父さんが横暴すぎ、我慢してるうちに
自分の気持ちがわからなくなってしまった。

噛み合わない時に、聞き返すと、
暴力的に怒ってくるのが腹立つんだ。

親の方がわかってない。
未熟なのに。訳が分からなくなる。

児童相談所で、自分の意見が聞いてもらえなかった時、
私が悪かったのかなと思った。

Ed Roberts Campus にある アドボカシー団体 DREDF



障害があるということはアメリカでも、
マイノリティの一つで、25%以上は貧困、
75%の失業者—社会の歴史的対応の結果

学校を選択する時、トラブルがあった時など、
アドボケイターの方が保護者と一緒について
サポートしていた。
(意志表明支援・意思決定支援)

意思決定支援



子ども・利用者と支援者との二者間における、
子どものニーズと支援者の支援可能性とを
コミュニケーションを通じて交換し、
両方で意思決定に向けた合意を形成していく実践課程。

子どもが決められるように、
出来ることは見守り、出来ないことだけ手伝うことです。

『現場で活かせる意思決定支援』
(知的障害の意思決定支援等に関する委員会)

子どもの権利を守る必要性



子どもも権利の主体である事
その時に障害のある子どものことを
忘れないでいただきたい。

障害のある子どもも
同じ日本の大切な子どもです。

今後日本でも子どもの権利を守るための
施策や組織が必要です。